

令和7年度 おくす佐野保育園 自己評価

A: 十分達成されている B: ほぼ達成されている C: 取り組まれているが成果が十分ではない D: 取り組み不足のため努力が必要

I 保育目標・保育方針		評価			
①	園の保育目標や保育方針は分かりやすい。	A	Ⓐ	C	D
②	園の保育目標が子ども達の中に生きている。	A	Ⓐ	C	D
③	園の保育目標や方針について、園長や他の保育士と話す機会がある。	A	Ⓐ	C	D
④	保育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	A	Ⓐ	C	D
⑤	園の保育目標は、園の創立の理念を生かしている。	Ⓐ	B	C	D

II 保育計画		評価			
①	園の保育計画は、教育目標を生かして作られている。	Ⓐ	B	C	D
②	子どもたちの年齢ごとの保育計画がある。	Ⓐ	B	C	D
③	園の保育計画は、園長と保育士が話し合いながら作られている。	Ⓐ	B	C	D
④	園の保育計画は、必要に応じて見直されている。	Ⓐ	B	C	D
⑤	園児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	Ⓐ	B	C	D

III 保育環境		評価			
①	保育環境を常に清潔に保ち、美観を大切に心地よい環境で保育が出来るように努めている。	A	Ⓐ	C	D
②	室内の温度、湿度、換気、照度等は園児の活動に合わせて配慮している。	Ⓐ	B	C	D
③	安心できる人的・物的環境をつくり「感覚」の働きを豊かにするように配慮している。	Ⓐ	B	C	D
④	屋外での活動の場があり、園児が安全に活動しやすい環境を整えている。	Ⓐ	B	C	D
⑤	年齢の異なる園児が、触れ合えるような環境構成をしている。	Ⓐ	B	C	D

IV 保育内容・方法		評価			
①	全ての園児について、一人ひとりの最善の利益とその人権を尊重している。	Ⓐ	B	C	D
②	園児にわかりやすい温かな言葉遣いで穏やかに話をしている。	Ⓐ	B	C	D
③	基本的生活習慣は園児の発達を考慮し、家庭と連携して状況に応じて対応している。	Ⓐ	B	C	D
④	身近な自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む考慮をしている。	Ⓐ	B	C	D
⑤	園児同士の関わりで、順番を守るなどの社会的ルールを身に付ける配慮をしている。	Ⓐ	B	C	D

V 食育		評価			
①	いろいろな味に親しみ、喜んで食事ができるようにした。	Ⓐ	B	C	D
②	食材に興味を持ち、名前を覚えるような声掛けができた。	A	Ⓑ	C	D
③	食事のマナーを知り、守って楽しく食事ができる環境ができていた。	A	Ⓑ	C	D
④	栄養素について興味・関心を持ち、苦手な食べ物も食べられるように工夫が出来た。	A	Ⓑ	C	D
⑤	野菜を育てる過程を楽しみ、収穫の喜びを味わい、達成感が得られるようにした。	Ⓐ	B	C	D

VI 保育士の役割・質向上		評価			
①	一人ひとりの園児をよく観察するように心がけている。	Ⓐ	B	C	D
②	全ての園児に平等に接するように心がけている。	Ⓐ	B	C	D
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	A	Ⓑ	C	D
④	研修に行った保育士の研修内容は、全員に紹介される。	Ⓐ	B	C	D
⑤	園児のモデルとなれるように気を付けている。	Ⓐ	B	C	D
⑥	保護者との信頼関係が出来ている。	A	Ⓑ	C	D

VII 子育て支援		評価			
①	園児の送迎時に園児の様子を保護者に伝えている。	Ⓐ	B	C	D
②	保護者の子育てについての相談にのっている。	Ⓐ	B	C	D
③	子育て支援の内容について話し合いをしている。	Ⓐ	B	C	D
④	子育て講演、情報提供を行っている。	A	Ⓑ	C	D
⑤	保育参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている。	Ⓐ	B	C	D

VIII 地域住民や関係機関との連携		評価			
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	A	Ⓑ	C	D
②	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	A	B	Ⓒ	D
③	地域の行事に参加し、地域の文化や生活に触れている。	A	B	Ⓒ	D
④	地域の人との交流を大切にしている。	A	Ⓑ	C	D

IX 運営管理		評価			
①	園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している。	Ⓐ	B	C	D
②	園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への対応ができる体制がある。	Ⓐ	B	C	D
③	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	Ⓐ	B	C	D
④	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	Ⓐ	B	C	D
⑤	事故災害時のマニュアルがあり、職員がすぐに見ることができる場所にある。	Ⓐ	B	C	D
⑥	緊急時のために医療機関等の連絡先が明示されている。	Ⓐ	B	C	D

評価の根拠

おーくすの方針でもある、子どもが自由で主体的に様々な活動を行っていけるよう、日々子ども達の声に耳を傾け、遊びを充実させられるよう職員同士で話し合い、成長や興味関心に合わせて環境作りを行っていった。

異年齢児保育や多世代間交流では、お兄さんお姉さん達に憧れる気持ちから様々な遊びに挑戦したり、年下の友だちの着替えや生活の準備等手伝い、互いに支え合いながら成長していく姿が多くみられた。また、同法人内にある特別養護老人ホームにも遊びに行く機会を設けたことにより、おじいちゃんやおばあちゃんと触れ合いながら互いに素敵な笑顔があふれていた。また、障害者支援施設オークスヴィレッジの秋祭りにも参加し、様々な人との関わりをとおり、思いやりのある人に成長していくことを切に願う。

食育では、今年も以上児クラスを中心に、季節を通じて興味をもった様々な野菜を園の畑で育て収穫し、調理をして食べる経験を多く取り入れた。また、季節ごとのクッキング活動を取り入れ、野菜の皮むきや、お月見団子、うどん作り等、楽しく美味しく活動する姿が印象的だった。

姉妹園との交流や地域の小学校との交流会等にも参加し、貴重な体験や有意義な活動に更なる子ども達の成長を感じた。

保護者が参加する園内行事(親子遠足・運動会・発表会等)では、沢山の方に子ども達の成長を感じいただく事ができ、喜びの声が多く寄せられた。また、職員と保護者のコミュニケーションが行事をとおりて増えたことにより、信頼関係も深まり、育児の悩み相談や日々の様子の共有等、密に行うことができていたように感じる。

事故・災害は、マニュアルに基づき対応していくと共に、園内や園外研修にも積極的に参加する事で、常に意識と知識を高めていった。また、毎月の避難訓練後には、職員同士で振り返りをし、反省点があれば次に活かせるよう会議で共有していった。

衛生・清掃等は以上児クラスの子ども達と共に日々行うことで、季節等で発生する感染症の拡大防止に努めた。しかしながら全国的にリンゴ病が大流行してしまい、園児の大半が感染してしまった。定期的に看護職から子ども達に手洗い・うがい指導を行い、感染症予防に取り組んでいった。引き続き安全を第一に考慮しながら、安心して利用していただけるよう、努めていきたい。

評価者

おーくす佐野保育園 園長 加藤木 綾香